

研究所 の変遷



戸塚工場内の技術研究所 (1954年ごろ)

当初の研究部門

当社が製品の改善進歩を目的として研究係を設けたのは1926 (大正15) 年1月のことである。当初は係員が数名の小さな組織だったが、厳しい財務状況下にあっても研究室を新築するなどし、同年11月には当社にとって初めての特許であるパンタグラフの鉤止め装置を開発するなど成果を上げていった。しかし、1929 (昭和4) 年の世界大恐慌によって社内組織が簡素化されて以降、独立した研究部門は設けられなかった。

第二次世界大戦終結後、1947年7月の機構改革により戸塚製作所内にわずか2名の課員をもって研究課を創設、その後は鉄道技術研究所 (現 鉄道総合技術研究所) から研究員を得るなどして研究業務を行った。1949年に研究課は設計部とともに本社直属の技術部に配置され陣容は拡大したが、1951年の不況により再び研究課は縮小されて研究室となり、材料以外の研究は一時中止された。

技術研究所

1952年に研究室は再び研究課となり、1954年に技術研究所が本社直属部門として設立され、同年10月には戸塚工場内に技術研究所本館が完成した。研究設備も充実して、電気機器、電動力応用、機械、材料の各分野での研究を推進し、その後、半導体分野にも研究領域を広げた。1983年には相模工場の隣接地に新・技術研究所を建設し、戸塚工場から移転したが、1999 (平成11) 年に相模製作所が横浜製作所に統合されたのを機に、技術研究所も横浜製作所の所属となった。



相模工場に隣接した技術研究所 (1983年)

研究所

1999年以降の経営改革の流れを受け、研究部門は度重なる組織変更と改称後、2006年には研究センター、2012年からは研究所となった。その間、2010年には研究開発・設計能力の向上を企図し、横浜製作所にエンジニアリングセンターを建設し、ハード・ソフト面の設備を充実させた。

今後も当社研究所はその活動を充実させ、高い技術力で社会や顧客の課題解決に取り組んでいく。



横浜製作所 エンジニアリングセンター (2010年)

研究所の変遷(創業時<1918年>~)

拠点名	1918年 (大正7)	1920年 (大正9)	1925年 (大正14)	1930年 (昭和5)	1935年 (昭和10)	1940年 (昭和15)	1945年 (昭和20)	1950年 (昭和25)	1955年 (昭和30)	1960年 (昭和35)	1965年 (昭和40)	1970年 (昭和45)	1975年 (昭和50)	1980年 (昭和55)	1985年 (昭和60)	1990年 (平成2)	1995年 (平成7)	2000年 (平成12)	2005年 (平成17)	2010年 (平成22)	2015年 (平成27)	2018年 (平成30)	
戸塚製作所 戸塚工場 (1939年~1983年)								●1947年7月 戸塚製作所に研究課を設置 ●1949年7月 研究課を本社組織の技術部所属に変更															
相模工場 相模製作所 (1970年~1999年)																							
旧横浜工場 (1919年~1985年)																							
新横浜工場 横浜製作所 (1985年~)																							